



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173600204		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム ふれ愛の郷(菜の花)		
所在地	埼玉県加須市新川通181-1		
自己評価作成日	平成28年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成29年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特に力を入れている取り組みは、外出支援である。こちらは毎年継続して行っている取り組みで、施設周辺の散歩や買い物、外食、地域行事への参加、日帰り旅行、個別の外出支援を実施している。入居者様の日頃の何気ない会話から、それぞれのニーズを把握し、希望を叶えることができるよう配慮することを重視して実施へと結びつけた。
また、今年度においても調理イベントやクッキング活動にも力を入れて取り組んでいる。入居者様の馴染みのメニューを中心として、うどん作りやギョーザ作り等を行った。「うちで昔作っていたよ」と昔を思い出されながら、楽しんで参加をして頂くことが出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・散歩や畑仕事など、日常的な外出支援に限らず、初詣や季節ごとの花見、買物や外食など、利用者の思いに沿った個別支援に意欲的に取り組み、利用者のその人らしく、生き生きとした暮らしに結び付けられている。
・ご家族のアンケートでも、「職員一人ひとりが親切で入居者の人達にとっても親切で対応が良いです」、「お知らせ等も頂けて有難いです」、「家族の意向をよく理解して有難うございます」などのコメントが寄せられ事業所の取り組みや職員の対応に、ご家族からも高い評価が得られている。
・平成27年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、自己評価を基に課題を設定、定期訓練では夜間時にキッチンからの出火を想定し、隣接事業所への応援要請や車椅子利用者の避難訓練など、実践的な訓練に取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を毎月の職員会議内にて職員全員で復唱し、意識付けを行っている。又、入職時に法人理念、接遇マナー、職員心得について研修を受けており、意識した行動が実施できている。	利用者一人ひとりの力を活かし、住み慣れた地域の中で、その人らしく自立した暮らしを過ごせるよう、尊敬と親愛の念を持ったチームケアに取り組み、理念が活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアや近隣のこども園との交流を実施しており、利用者に喜んで頂いている。また、地域のイベントに参加し、交流の機会を作るようにしている。	地域で催される祭りや文化祭に出かけられたり、高校吹奏楽部の定期演奏会に招かれているほか、園児やボランティアとの交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた取り組みは実施していない。しかし、運営推進会議等で、ご家族様に向けて認知症の症状や対応についてお話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に実施している。会議内では、サービスの報告、話し合いの場を設けている。様々な意見を頂き、参考となる事柄について事業所内で報告し、実践をしている。	事業所から日常のサービスの取り組み状況や行事予定などの報告のほか、水害対策や転倒事故防止対策など、幅広い内容での意見交換が行われ、有意義な会議運営をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場の担当者の方に出席頂き、事業所の実績を報告し、行政からの意見を頂いている。又、地域の行事に参加することで、事業所の周知・信頼関係を築けるようにしている。	行政の担当者からは、運営推進会議でアドバイスをいただいたり、申請手続きや報告・相談時のほか、地域介護サービス事業者の会合などでコミュニケーションを図られ、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束マニュアルに則り、禁止事項を行わないよう意識している。又、夜間以外の玄関の施錠は出来る限り行わないようにしている。	定期的に勉強会が行われ、全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、外出願望の強い方には事業所内や広い庭を活かされ、行動抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の年間スケジュールに高齢者虐待に関する研修を入れ、学ぶ機会を設けている。又、痣を発見した際はケース記録への記入と申し送りを徹底して実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について理解に努め、必要時に説明できるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と話し合い、納得して頂いた上で契約を締結している。又、解約についてはご家族との事前の相談を重ねた上で、解約の理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族会やサービス担当者会議を開催することで、ご家族の意見をお聴きし、サービスに反映させている。	利用者からは日々の会話の中で、思いや要望を聴くよう努められている。家族とは家族会やサービス担当者会議のほか、顧客満足度アンケートで意見・要望を聞き取られ、事業所運営やサービス向上に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員へ意識調査アンケートを実施している。又、定期的に個別面談を行い、施設の取り組みに関する意見や要望、提案を聴き入れ、運営に反映させている。	年度の事業計画作成には職員全員で話し合い、意見が活かされている。また、個別外出支援や家族への情報提供など、サービスや事業所運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の適正について評価を行うと共に、職員から現在の職場に対する要望等を聴いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修を実施している。又、外部研修への参加を実施し、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修において、研修参加者との交流の機会を図り、情報の共有や交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりとしたアセスメントを行い、本人のできることを把握し、より良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にお話を伺う場を設けて、ご家族の困っていること等を確認し、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・ご家族のニーズを見極めるよう努めているが、他のサービスを利用した前例はない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、役割活動をともに行う等、職員・利用者が相互に支え合うような関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から面会を促し、ご家族に利用者の日頃の様子を伝えている。更には、サービス担当者会議を通じて情報共有を行い、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンとなるご家族だけでなく、利用者に関わりのある方への面会も喜んでお受けしている。又、個別の外出支援を実施し、利用者の馴染みのある場所や人に会う機会を積極的に提供している。	古くから友人やご近所の方の面会、馴染みの店での買物や外食のほか、家族の協力を得て初詣や親族との新年会に出かけるなど、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないよう、利用者の関係性に注意し、レクリエーション等、共に過ごす時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、法人内のサービスでフォローを行い、情報提供等の相談に対する援助も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、職員全員で考え活用することで、利用者の思いや要望に沿った支援を行っている。	利用者とのコミュニケーションを大切に、寄り添うことで、思いや意向を把握されている。困難な利用者についても言葉や表情・仕草などから汲み取るほか、生活歴などの振り返りや家族からの情報提供を得て、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を基に、自宅で過ごしていたような生活が継続できるよう支援している。又、サービス担当者会議にて、利用者の昔の生活状況をご家族にお聴きし、参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子を職員間で共有できるよう、日々の記録やカンファレンスにて具体的に報告を行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員・担当職員・ご家族が出席し、サービス担当者会議を行い、その場の意見を基に介護計画を作成している。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師の指示を含め、関係する職員で意見交換を行ない、その人らしさを大切にした介護計画が作成されている。また、見直しについても、適宜行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録において、利用者の様子及び職員の対応方法を具体的に記入することで、情報を共有している。又、ケアプラン実施表を活用し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や外出支援、他事業所の協力等、可能な限り利用者・ご家族の要望に応じて柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域資源の情報収集を行い、一人ひとりに合う外出支援を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則、ご家族に依頼しているが、受診時に介護サマリーをお渡ししたり、利用者の状態に応じて同行することで、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関を選択していただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なわれるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に月2回来て頂き、利用者の情報を詳しく伝え、健康管理に努めている。又、併設する特別養護老人ホームの看護師にも相談の機会を持っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、状況の把握と病院との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人として、重度化及びターミナル指針は作成されている。事業所としては、契約前に重度化により退所に至るケースを説明している。その際、併設する特別養護老人ホームと連携して、フォローに努めている。	入居時に事業所が対応し得るケアについての説明が行なわれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後は状況に応じて、併設の特養との連携を図り、意向に沿った支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿った対応が出来るようシミュレーションを実施したり、内部研修を実施している。又、救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成されており、年3回の訓練を実施している。	定期訓練では夜間時にキッチンからの出火を想定し、初期消火・通報・一次避難場所への誘導訓練に取り組まれている。また、ハザードマップでの水害対策の検討や備蓄品の整備、地域との災害時協定書の取り交わしなど、体制整備に努められている。	災害対策には充分取り組まれています。一級河川に近い立地や高齢の利用者をあずかる事業所として、水害発生を想定した避難訓練の実施とその対策の検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉遣いやマナーに気をつけるよう職員へ呼びかけている。	職員間の申し送りの際には場所を変えたり、利用者にはわからないよう居室番号で行うほか、個人的な心配事に対しても、居室で安心出来る言葉掛けをするなど、利用者に対し、尊敬と親愛の念を持った対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者を支援する際、その都度思いを確認しながらサービスを提供している。センター方式の活用や個別外出支援、個々を主役とした馴染みの味付けでの調理イベントに繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性のある生活を提供している。利用者に拒否的な態度が見られる時は無理強いせず、利用者のペースに沿った援助を行っている。センター方式を活用して、統一したケアを行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助を要する利用者は、起床時に髪を整える等のエレガンスを行っている。要望があれば、化粧水や保湿クリーム塗布(声かけ)を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを行って頂き、準備をして頂いた食事を職員と共に召し上がって頂いている。又、畑で収穫した野菜を使い、浅漬けやぬか漬け作りを行って頂いている。	利用者個々の状態に合わせ、テーブル拭きやランチョンマットの準備や後片付けなど、仕事として利用者が行っている。また、調理イベントではおでんや餃子、うどんづくりなど、食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録に残すことで、利用者の変化に気付けるよう努めている。摂取量の少ない利用者は、管理栄養士に相談する等で個別に対応方法を検討・実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後に口腔ケアの声かけを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促している。必要に応じてポータブルトイレの設置、パット等の使用の検討を行い、適切な対応に努めている。	現在入居されている利用者は全員トイレで排泄をされているが、利用者の動きをよく観察し、利用者のタイミングでトイレへの誘導が出来るよう心がけ、実践をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分摂取量の確保や日常生活で身体を動かす機会を作るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の拒否が見られる際は、無理強いせず時間を変更したり、翌日に変える等、その方の希望に合わせて実施している。	利用者の希望に沿った支援をされている。入浴を拒否される利用者には無理強いすりことなく、状況に合わせた対応をされている。また、浴室や脱衣所の温度管理など、安全への配慮が取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に疲れが見られる利用者は、自室での休養を促している。夜間も安眠できるよう、日中の適度な活動も設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬の知識」のファイルを用いて、利用者が服用する薬の種類や作用について、いつでも閲覧できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、利用者の馴染みの習慣や好みを把握し実践している。利用者の楽しみや自信へと繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望を把握し、外出支援を実施している。要望の表出が難しい利用者については、ご家族より情報を収集し、実施へと結び付けている。又、日常的に散歩の機会を設けている。	事業所や周辺の環境を活かし、散歩を日課とされている。北海道出身の利用者には、外食は地元料理のある「とんでん」に行き、近くの店で北海道フェアがあれば出かけられている。また、季節ごとの花見や日帰りバスツアーなど、外出の機会を多く持つよう支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾を頂いている方について、お金を自己管理で所持して頂いている。外出先にて、ご自分のお金を使用する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	了承を得ているご家族に対しては、電話をお繋ぎし、利用者の精神安定を図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や施設内は季節に合わせた装飾を施している。又、居室入り口に利用者の思い出の品を飾るスペースを設けており、馴染みのある空間を演出している。	リビングルームは広々とした庭と赤く咲く山茶花を眺めながら、日光浴を楽しまれたり、隣接の小上がりには掘りごたつがあり、ゆっくり過ごせる設えとなっている。その他、室温や湿度、採光や居室表示など、きめ細かな配慮がとられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外窓に面した廊下には長椅子を設置しており、利用者同士が腰を掛け談笑する姿が見られる。食堂の隣には掘りごたつのある和室があり、利用者の要望に応じて使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた物や馴染みの家具等を設置することで、安心した生活が送れるよう配慮している。	家族の写真や位牌、友人からのプレゼントされたツラメンの花などが持ち込まれ、利用者が落ちついて過ごせるよう工夫をされている。また、毎日掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札と利用者の思い出の品を飾るケースを設置し、自身の居室がわかるよう配慮している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームふれ愛の郷(菜の花)

作成日: 平成 29 年 3 月 4 日



目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策には充分取り組まれています、一級河川に近い立地や高齢の利用者を預かる事業所として、水害発生を想定した避難訓練の実施と、その対策の検討を期待します。	これまでの避難訓練(火災、地震等)に加えて、水害発生を想定した避難訓練を実施し、様々な自然災害に対する職員の対応力を身につける。また、非常時持出品リストの作成・完成を目指す。	・継続した避難訓練の実施 ・非常時持出品リストの作成・物品整理 ・具体的な搬出方法と役割分担の明確化 ・想定を変えた避難訓練の実施(水害避難訓練)	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。